

### 愛知県埋蔵文化財調査センター出前授業を受けました。

7月3日(水)普通科2年生7・8・9組の日本史B選択者73名、食物科3年生の40名に対して愛知県埋蔵文化財調査センターから講師を迎え出前授業を行っていただきました。

本年度は大変慌ただしかった昨年度の反省に鑑み、普通科は7・8・9組合同で2時間連続授業という形式でお願いしました。そこで普段は定時制の給食室と全日制の自習室とに分けて使用している感喜堂の壁を外して、大教室として使用することとしました。

食物科では、3年生で日本料理を学習することもあり、できれば実際に料理を盛るような器を中心にお話ししてくださいとリクエストしたところ、「うつわの歴史」というテーマで愛知県のやきものの発達過程と食生活様式の変遷と中心にお話しいただき、持ってきていただいた陶磁器を実際に触れて観察しました。

普通科では、埋蔵文化財等の実物資料を通して特に郷土の歴史を学ぼうと考えました。そして埋蔵文化財に実際にふれて身近に感じてもらうことで夏休み課題「博物館レポート」を、より円滑に進められればと考えました。また生徒の中には、歴史好きに加え教員志望や研究者志望もいることもふまえ、1時間目は「ものづくり王国愛知の源流」という題で愛知県の窯業の歴史を、2時間目は「考古学への招待」と題して、三の丸遺跡の発掘の様子や考古学の方法を紹介していただき、実際に持ってきていただいた陶磁器を手にとって観察しました。折角の機会なので、愛知県の窯跡の分布をまとめた「あいちけんきなげさんせいなんろくこようせき愛知県猿投山西南麓古窯跡群分布調査報告」愛知県教育委員会や、有田焼、織部・志野などの器の図録なども用意しました。

生徒達の提出したワークシートには、授業では味わうことのできない「実物の語る力」に感動する意見が多くみられました。

食物科では、器の形状の展開には箸などの道具との連関がみられることに驚いたり、意外な造形や感触に感嘆したり、盛られた料理を想像したりする感想が多くみられました。自分たちが、日頃、集団給食実習をしたり課題研究に通年的に取り組んだり、強く関心をもち探究していることへの答えの一端が、そこにはあったようです。食物に関する興味はどの時代の人でもかわらないんだな、という生徒のひとつことは、人間文化の本質を象徴するものといえるかもしれません。

普通科では、愛知県の歴史について再認識できたこと、そして思ったより器が軽かったり重かったり、表面が思いの外ざらざらだったり、など実際に触れて分かることに感動を覚える意見が多数でした。なかには、日本の焼き物が中国のコピーであったことと現在のアニメキャラ等を巡る中国のコピー問題と関連づけて考えてみたり、ものづくりの観点から歴史を考察することで新しい視点をみつけたりと、自分たちで新しい課題を見つけている生徒もおり、生徒達に良い刺激になったようです。

出前授業に大変満足したのでしょうか。授業後に原状復帰を手伝ってくれた生徒達の行動もとてもきびきびしており、持参していただいた遺物の片付けも申し出てくれました。とても良い機会を本当にありがとうございました。



#### 食物科 講義風景

講義の後、手前の遺物を手にとって観察しました。山茶碗やまぢやわんがざらざらでこれにご飯を盛ったのだろうか、とか、食器の歴史は食文化の歴史だと感じた、この器が何の料理に使えるかなど考えながら聞いていたらとても面白かった、などの意見が多く見られました。



#### 普通科 講義風景

1 時間目の「ものづくり王国愛知の源流」に引き続き、2 時間目は「考古学への招待」と題して発掘調査の実施の様子や遺跡・遺物の年代測定方法などを、三の丸遺跡や長屋王邸を題材に話をいただきました。



#### 普通科 遺物観察風景

志賀公園遺跡や三の丸遺跡などから出土した遺物を手に取って観察しました。1 限目に学習した内容を踏まえ、古代の土師器・須恵器すえき、灰釉陶器かいゆう、緑釉陶器りよくゆうから近世の織部おりべ・志野しの、有田焼、瀬戸焼など貴重な遺物に触れることができました。